

# Library News



大山崎中学校図書館

令和7年10月

## 出逢い本、はじめました。

9月の図書委員会活動で「出逢い本」という活動を始めました。

これは表紙や中身が見えなくして、図書委員の手書きのコメントと裏表紙に貼りつけてある、本を読んだ人の感想を参考に本を選んでもらうというイベントです。自分では選ばないような本と出逢ってみよう、という意味で出逢い本と名付けました。読み終わったら自分も感想を書き込んで次に借りる人の参考にしてもらいます。リレーのバトンのように感想メモが人と人をつないでいきます。あなたも感想を書きこんで読んだことのない本と、話したことのない人と出逢ってみませんか。



すでに2冊が貸し出されています。  
他の本も借りてね。

## しおりプレゼントのお知らせ

図書室では年間 30 冊以上本を借りた人にパンダしおりを、50 冊以上借りた人には特製しおりをプレゼントしています。今年好調でもうパンダしおりを 3 人の方にプレゼントしました。自分が何冊借りたか知りたい人はカウンターでお尋ねください。

手のところに切り込みがあってページをはさめるんだよ



はさむとこんな感じ



## 新着本

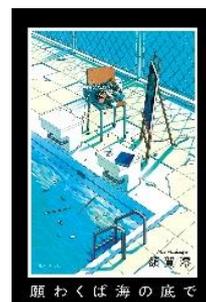
### 『彼女が生きてる世界線！』 中田永一

交通事故で死んでしまった僕は 28 歳のアニメ好きの平凡なサラリーマンだった。ところが気づいてみると僕は大好きだったアニメの悪役、城ヶ島アクトに転生していた。このアニメでは大好きなヒロインのハルは病気で死んでしまう。嫌だ。ぼくは悪役でもなんでもいいからハルの声を聞いていたいのだ。そこで僕はサラリーマンとしての経験を活かし、なんとかしてハルが病気に打ち勝つ世界線を目指して生きることに…分厚いけれどサクサク読める面白さ！



### 『願わくば海の底で』 額賀滯

菅原晋也には大切な人からもらったものを置き忘れたり、失くしてしまったりして、贈り主を傷つけてしまうという悪癖があった。自分でも治したいのにやっってしまう。そんな晋也だが皆、なぜか彼には不思議な魅力を感じていた。しかし、あの日、晋也は姿を消してしまい……残された人の思い出を通して描かれる高校生の日常とその日常が奪われた喪失感。読後、自分もまた祈りたくなるような、願いたくなるような小説です。



### 『怪談』 小泉八雲

こわい話が大好きという小中学生は多いのですが、昔話的な怪談をちゃんと知っている中学生はどれくらいいるのでしょうか。本書はそういった怪談をまとめた小泉八雲（ラフカディオ・ハーン、英国人、1896 年日本に帰化）の『怪談』から 10 編をとりあげ、語りに適した訳をつけたものです。表紙のデザインが大変美しく不気味でそれだけでも一見の価値あります。畳の部屋でろうそくをともして読んではいかが。



### 『パズルと天気』 伊坂幸太郎

とあるマッチングアプリのプロフィール欄に謎があります、と書くと、解決してくれる名探偵とマッチするという噂を聞いて、悩みを抱えた僕はその「名探偵」とマッチするが、あらわれた名探偵の推理は……本年度から 2 年生の教科書で伊坂幸太郎の短編が教材となりましたが、彼の本を読んだことがある人はいますか？本書はその伊坂幸太郎のデビュー 25 周年を記念して刊行された彼のエッセンスの詰まった短編集。どれもがなんだか幸せな気持ちになれます。読後、表紙をじっくり眺めてみてください。お話のピースが散りばめられています。



### 司書のひとりごと 昨日の本棚から 『僕は鳥のことばがわかる』 鈴木俊貴

バードウォッチングが趣味の一つである私にはタイトルだけでも心躍る本ですが、小鳥には興味の無い方にもぜひ読んでみてほしい一冊。筆者はシジュウカラの観察をしているうちに、鳴き方の種類の多さから彼らは言語能力を持っているのではないかとコツコツと研究を続けます。それはやがて世紀の大発見へとつながりますが、筆者の夢はまだまだ続き、世界中へと広がります。一緒にワクワクしてくるようなノンフィクションです。